

# 森の温泉～駒の湯通信 (はじめに)

2018年12月

震災前の駒の湯温泉玄関



2本の落葉松

駒の湯温泉は1617年に発見され、翌年開湯し、昔、車が入れなかった頃、必ず駒の湯に宿泊していました。登山口にある宿として登山や湯治などのお客様を迎えていました。戦後、満州開拓団の引揚者を受け入れ、一時期は共同生活の場になりました。国立公園の指定のためにキャンプ場用地として山林を貸し、観光の発展に協力しました。電報配達や気象観測を行ったり、地域の発展においても努力をしました。県内各地の学校登山も最初の頃は駒の湯に泊まって温泉裏の登山道を通り、登山をしてました。

森の中にある温泉旅館でした



2本の落葉松

車が入れなかった時代、駒の湯しがなく、目印になっていました。



被災前の浴室



2008年6月14日8時43分、岩手・宮城内陸地震 マグニチュード7.2(推定震度7)が発生  
2002年に改装したばかりでしたが、対岸の崖が崩れ、沢を塞いだため、上流で発生した土石流の流れが変わり旅館を直撃し、7名が犠牲になりました。

②山腹崩壊と大量の残雪によって、土石流になってしまいました



③ここにあった建物が流され、反転して林側に押し付けられ止まりました

①向かいの崖が崩落。深さ30mの沢を塞ぎました

参考: 砂防地滑り技術センター報告書  
[https://dilopac.bosai.go.jp/publication/nied\\_natural\\_disaster/pdf/43/43-01.pdf](https://dilopac.bosai.go.jp/publication/nied_natural_disaster/pdf/43/43-01.pdf)

『山と溪谷2008年8月号』山と溪谷社.2008

建物の裏が見えています

2本の落葉松



土石流で建物は流されながら1階部分は完全に埋もれてしまいました。1階で閉じ込められた息子は肋骨と足を骨折しながらも、自力でガレキの中から脱出。流木や瓦礫をつたって残った2階部分の窓から中に入って救助を待ちました。

父は外に出ていて土石流にのみ込まれましたが、運よく岩に体を押し上げられ泥の海から顔が出て自力で泳ぎ切り、その跡が残りました。



翌年不明の方が見つかり、生き残った二人は三回忌に慰霊碑を建立しました。地区の人やご遺族からもご寄付をいただきました。